

ステークホルダーからのメッセージ

さまざまなステークホルダーのみなさまの声に耳を傾け、CSR活動の見直し・改善に活かしています。

「ITが人と社会にできること」——日本ユニシスグループのCSR活動の根幹である「本業」としてのITサービスは、「社員一人ひとり」が形成していくものです。2005年より発行している本CSR報告書では、毎年、お客さまや外部有識者の方などさまざまなステークホルダーのみなさまから貴重なメッセージをいただいております。

会社設立50年目という区切りの年である本年の報告書においては、「社員」/「社員OB」/「社員の家族」という“内側の視点”からCSR活動の現状を見つめ直すことで、今後の活動に活かしていきたいと考えます。

“お客さまとともに成長していける 企業であり続けるために——”



日本ユニシス
エアラインシステムプロジェクト 副部長
永井 和夫

Profile

1983年に入社後、営業職として製造業を中心に幅広い顧客を担当。2002年より経営企画部にて経営戦略の企画・推進に携わった後、ビジネス開発部門、エンタープライズソリューション事業部長、流通事業部副事業部長などを経て、2008年4月より現職。

本報告書を通じて、ITという本業を通じて社会的な責任を果たしていくことの重みや意義深さというものを改めて感じました。時代の流れのなかでITに求められる役割は変わっていくものだと思いますが、とくにこれからの時代は従来の「業務実行支援（エクセキューション）」に加えて、戦略や価値規範を浸透させるための「ガバナンス」の確立支援や、社内・外での「コラボレーション」の推進による新たな価値創造など、新たな目的のためのIT活用が発展、拡大していくと考えています。

このような新たなIT活用の可能性をお客さまと一体となって切り拓くためには、まず第一に、私たち自身がお客さまから「期待」される存在であり続けることが不可欠だと考えています。CSR活動の側面からも、各ステークホルダーに、私たちの考え方・具体的な活動をご理解いただけるよう、内容の充実とメッセージの発信を続け、やがては日本ユニシスのビジネスの発展が社会的価値の増大につながるものと捉えていただけるように努力していくことが重要だと思います。

現場でお客さまにサービスを提供する立場としては、これからもお客さまとビジョンを共有させていただきながら、お客さまとともに成長していきたいと考えています。そして、お客さまのビジネスの拡大を通じて、社会に貢献することが、私たちにとつてのCSR活動への参画の仕方だと思います。

“退職後も“つながり”を 感じられる機会・場を”



日本ユニシス 社員OB
村山 洋史

Profile

1969年に入社後、流通業界を中心にシステム開発業務に従事。1998年以降、技術認定制度立上げ、西暦2000年問題対応、ASP事業推進に携わるなどを経たのち、2004年度よりユニシス研究会事務局を担当。2006年3月末定年退職。

「CSR」という言葉自体はまだ歴史が浅く、明確な定義が確立されていない分野だと思いますが、従来はどちらかというと“事業活動以外”の部分で捉えられることが多かったのではないのでしょうか。そうしたなかで、日本ユニシスで言うところのITという「本業」そのものが社会的な責任としてお客さまからも認知いただきつつあるところに、“CSRの深化”を感じます。

日本ユニシスグループは今年、設立から50年という節目を迎えました。その多くを大好きなこの会社で過ごしたOBとしては、これからもCSRを基軸に“だれもが働きがいを感じられる会社”へと、より良く変革して行って欲しいと思います。また、定年退職後も何らかの形で会社のCSR活動につながりを持てるような機会・場をもっと多く作っていただきたいと思います。それが、社員や社員OBにとって、本当に長い意味でのワークライフバランス——“入社から定年後までイキイキと”というところに結びついていくと考えるからです。

報告書全体としてはお客さまや社員の生の声前面に出ており、身近なところからCSRが実践されていることを強く感じますが、今後は、やろうと思ってできなかったこと、将来に向けた課題・反省点などについても言及し、経年で改善するような取り組みを期待します。

昨年度の報告書(CSR報告書2007) に対する評価について

外部からの評価

(お客さま/株主・投資家/NPO/有識者 など)

コメント(抜粋)

- ステークホルダーの中でもとくに、社員の顔が見え、社員が一体となっている企業風土が伝わってきました。とくにワークライフバランスの取り組みは、参考になりました。
- 各事例や従業員・お客さまなど各ステークホルダーのコメントの記載が豊富でした。それにより御社のCSR活動の実態、取り組みの層の厚さ、のようなものがよくわかりました。
- 広範囲にわたって必要事項を備えていて良いと思います。とてもよくまとまっています。

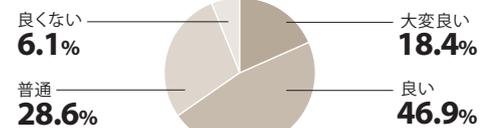
社員の評価

コメント(抜粋)

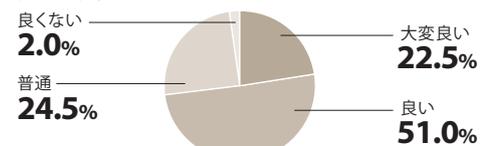
- お客さまを担当しているメンバーの顔が見え親しみを感じる。
- ITを人が語ることによってわかりやすい内容になっている。
- お客さまの声を聞くことによってモチベーションが高まってくる。
- 「社員・家族とともに」「地域・社会とともに」の部分に厚みを持たせ、もっと家族に読んでもらえる報告書になると良い。

社員アンケートの回答

読みやすさ



わかりやすさ



内容



社員の家族から見た 「ワークライフバランス」



織田 祥子さん

(夫:日本ユニシス 経営企画部 織田 聡
2007年11月に育児休職および積立特別
有給休暇を取得)

日本ユニシスグループCSR報告書を大変興味深く読ませていただきました。とくに、ワークライフバランスを推進するための啓発活動をさまざまな形で実施されている点や、経営層から社員の方々に向けてそうしたメッセージを積極的に発信されている点に感銘を受けました。

我が家では昨年第1子が誕生しましたが、夫婦とも両親が高齢で子育て面の支援を期待できない状況のなか、出産直後の時期に、夫が「育児休職」と「積立特別有給休暇」による約1ヵ月の休みを取ってくれたことで非常に助かりました。今となっては些細なことでも出産当時はいろいろと不安に感じていましたが、夫が側にいてくれたことで、また毎日献身的に支えてくれたことで、精神的にも身体的にも安心して過ごすことができました。休みを取得するにあたっていろいろと配慮・協力いただいた職場の上司・同僚のみなさまにも、大変感謝しています。

一般に業務多忙と言われることの多いIT業界において、子育てを含めたワークライフバランスを実現するのは決して容易ではないと思いますが、今後も社員の方々が“多様な働き方・生き方”を選択できるような環境を、会社全体として作っていただければと思います。

お客さまや社員を中心に「人」を前面に出した内容構成、および「読みやすい、わかりやすい、読んでみたい」報告書をめざすという編集方針については、多くの方々に共感いただけたものと考えています。これからも、社員およびさまざまなステークホルダーのみなさまから、より共感されるCSR活動をめざしてまいります。